

溶岩ドーム崩壊ソフト対策検討委員会の 雲仙岳火山防災協議会への移行について

1. 雲仙・普賢岳溶岩ドーム崩壊ソフト対策検討委員会（以下「ソフト対策委員会」）

- ✓ 目的：溶岩ドーム崩壊に関する調査、観測およびソフト対策の検討や異常確認時の状態判断
- ✓ 開催頻度：年1回程度（国交省雲仙復興事務所）
- ✓ 主な内容
 - 溶岩ドームの挙動観測（監視カメラや振動センサー等）結果の報告
 - 観測データをもとにした監視基準の妥当性検証
 - ソフト対策の取組検討

2. 現在の状況

- ✓ 雲仙直轄砂防事業が令和2年度に完了するもの。
- ✓ 県と3市においては今後の砂防施設管理について、国による直轄管理を要望している。
また、それに伴う溶岩ドームの監視・観測も継続して行うよう重ねて要望。
- ✓ ただし、ソフト対策（訓練も含む）については本来、県や市が行うものである。

第1回幹事会における意見

- 原因が何であれ、崩壊するのは火山（溶岩ドーム）。火山が崩れるのだから、その警戒避難体制などを検討するのは火山防災協議会である。

これからの火山防災協議会の例

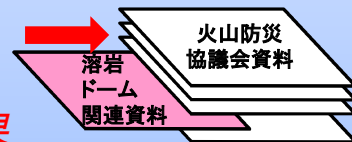
【火山防災協議会】

○協議会での議論内容

- ・ 起こりうる噴火シナリオ策定
- ・ 噴火による被害想定検討
- ・ 噴火リスクの適切な評価
- ・ 迅速な避難指示体制の確立
- ・ 防災知識の普及啓発



- ・ 溶岩ドーム観測結果
- ・ 監視基準の妥当性検証
- ・ ソフト対策報告



火山防災協議会

消防
警察
自衛隊
・
・
・

長崎県
半島3市
国交省
気象台
学識者
・
・
・

【溶岩ドーム崩壊
対策検討分科会(仮称)】

- ・ 観測結果取りまとめ
- ・ データ分析
- ・ 結果資料を提出

水無川
砂防施設管理者

溶岩ドーム関連の報告資料を**分科会**に提供
(データ分析、資料作成)

水無川砂防施設管理者

ソフト対策会議の役割を追加

(危機管理体制の連携等にかかる取り組みと情報共有)

【平時の火山防災協議会幹事会】

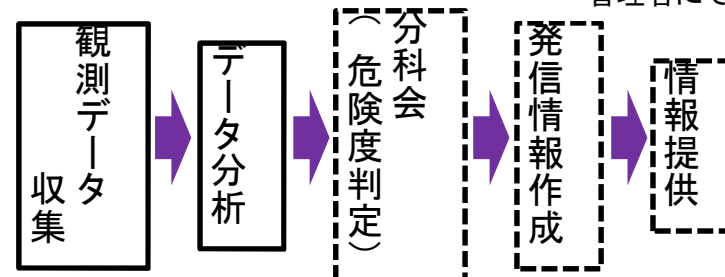
- ・ 火山防災協議会に諮る内容の議論
- ・ 実務者レベルの情報の共有

◎検討・作業内容

1. 臨時委員会の機能を維持するための分科会を設定。
2. 状態判断を行う学識者はソフト対策委員会参画の学識者
3. 国交省も観測結果や判断するための資料作成に参画

【情報提供の流れイメージ】

※実線枠を砂防施設
管理者にて実施



委員構成について

【雲仙岳火山防災協議会の学識者】

氏名	職名	備考
下川 悦郎	鹿児島大学名誉教授	砂防、地すべりの専門家
清水 洋	九州大学地震火山観測研究センター長	火山の専門家
松島 健	九州大学地震火山観測研究センター准教授	火山の専門家
渡邊 一徳	熊本大学名誉教授	火山の専門家

【ソフト対策委員会】

氏名	職名	備考
下川 悦郎	鹿児島大学名誉教授	砂防、地すべりの専門家
清水 洋	九州大学地震火山観測研究センター長	火山の専門家
高橋 和雄	長崎大学名誉教授	防災、復興の専門家
蔣 宇静	長崎大学教授	地盤、地すべりの専門家
山田 孝	北海道大学農学研究院流域砂防学研究室教授	流域砂防の専門家(元国交省職員)
中谷 洋明	国土技術政策総合研究所土砂災害研究室長	砂防、地すべりの専門家
木村 拓郎	減災・復興支援機構理事	防災、復興の専門家